

# 上智大学総合人間科学部看護学科紀要 投稿に関する取り決め

2019/8/7

2020/04/06 修正

2021/7 修正

2023/2/15 修正

## 1. 目的

上智大学総合人間科学部看護学科（以下「学科」）の紀要刊行目的は、次の通りとする。

- 1) 本学科における研究成果の発表
- 2) 本学科の研究・教育活動に関する外部への情報発信
- 3) 看護学、保健学、助産学、および養護学の学術的な発展への寄与

## 2. 投稿者の資格

- 1) 本学科専任教員
- 2) 上智大学総合人間科学研究科看護学専攻の大学院生および大学院修了生  
(投稿論文は在学中に行った研究成果の発表に限る。投稿の際には指導教員の確認を得て、共同研究者か謝辞に指導教員名を入れること)
- 3) 共同研究者  
筆頭著者は1) または2) に限る
- 4) その他紀要委員会が適切と認めたもの

## 3. 原稿の種類

- 1) 原稿の種類は、総説、原著、研究報告、短報、資料、実践報告であり、未発表のものに限る。
- 2) 原稿の内容は下記の通りである。
  - (1) 総説：特定のテーマについて多面的に内外の知見を集め、また文献等をレビューして、当該テーマについて総合的に学問的状况を概説し、考察したもの
  - (2) 原著：知識の発展に貢献する独創的な論文であり、オリジナルなデータもしくは分析に基づいて得られた知見と実践への示唆が論理的に述べられているもの
  - (3) 研究報告：内容的に原著には及ばないが研究としての意義があると認められるもの
  - (4) 短報：迅速に公表する意義のあるもの
  - (5) 資料：臨床や教育現場に何らかの示唆をもたらす、資料的価値があるもの
  - (6) 実践報告：教育実践、看護実践の報告で、得られた成果が本学の発展に寄与すると考えられたもの
- 3) 原稿は邦文とする。

## 4. 倫理的配慮

- 1) 人を対象とする研究は、倫理的に配慮され、その旨が本文中に明記されていること。
- 2) 上智大学「人を対象とする研究」に関する倫理委員会、または主となる研究者が所属していた施設の倫理委員会の承認を得ていること。
- 3) 投稿原稿内には研究倫理委員会等での承認番号を明記すること。

## 5. 多重投稿、重複投稿の禁止

本誌では、投稿論文が他の学術雑誌に投稿中、または既に他誌において採択された論文と内容が同一の論文は受け付けない。

## 6. 利益相反

投稿者は、すべての著者について企業等との利害関係の有無（利益相反）を確認し、本文末に明記する。  
なお、利益相反の有無は原稿採否に影響しない。

## 7. 投稿手続

- 1) 投稿原稿を紀要委員会が定める期日(2022年8月26日)までに提出する。
- 2) 投稿原稿は正本・副本の2種類作成（副本は著者名、所属、連絡先など著者を特定できる情報を削除する）し、PDF形式に変換の上、パスワードをかけたファイルを電子メールで紀要委員長に送信する。
- 3) 投稿前に必ずチェックリストを用いて原稿が投稿規定に沿っているかを確認する。
- 4) 投稿規定に沿わない原稿は、返却する場合もある。

## 8. 原稿の受付および採否

- 1) 投稿原稿の紀要への掲載の採否は、2名の査読者による査読結果をもとに、紀要委員会が決定する。
- 2) 査読結果により修正を求められた著者は、指定された期日までに内容修正を行い再投稿する。
- 3) 最終原稿は、本文と図表のファイル（WordまたはExcel形式）を電子メールで紀要委員長に、指定された期日までに提出する。
- 4) 最終原稿は1部印刷し、上智大学目白聖母キャンパス事務センターに提出する。

## 9. 原稿執筆要領

- 1) 原稿は原則として、コンピューターソフト（Word等）で作成する。
- 2) 原稿はA4版、横書きで、40字（英字・数字は半角）×25行とし、適切な行間をあける。
- 3) 総説・原著・研究報告は原則16ページ（16000字）、資料は12ページ（12000字）、短報は8ページ（8000字）程度とする（本文、文献、図表を含む）。なお、図表は1点につき、400字相当とする。規定の枚数を超える場合は投稿前に紀要委員長にご連絡下さい。紀要編集委員会で検討し回答いたします。
- 4) 表紙には、論文の種類、表題、キーワード（3語～5語）、著者名、所属を日本語と英語で表記する。
- 5) 総説・原著・研究報告・資料・実践報告は、2ページ目に400字程度の和文要旨を付ける。原著は250 words程度の英文要旨をつける。英文要旨は原則ネイティブチェックを受けること。
- 6) 図表の使用は必要最小限にとどめ、「図1」「表1」「写真1」等の通し番号をつけ、本文とは別に一括し、本文原稿右余白にそれぞれの挿入希望場所を指定する。
- 7) 外国の人名、地名に原語を用いる。叙述中の外国語にはできるだけ訳語をつける。
- 8) 文献の記載方法は基本的にアメリカ心理学会 APA 方式（ハーバード方式）に準じる。

APA論文作成マニュアル 第3版（2023）．医学書院（ISBN-10: 4260048120）に基づき記載方法をまとめた。

- (1) 本文中の引用箇所には、著者の姓、西暦発行年、引用ページ数を括弧に表記する。直接引用する場合は必ずページ数を記載する。他の著作の概略的な考えあるいは他の著者の文献の言い換えを引用する場合はページ数を省略することができる。

### ① 著者が1人の場合

著者・発行年方式では著者の性（Jr. などの接尾語は含まない）と発行年をふさわしい場所に挿入する。

例) 小林（2013）によると「～である」（p.5）、または、  
小林は～であると述べている（2013, p.5）、もしくは、  
～であると述べている（小林, 2013, p.5）。

\*引用が複数ページにまたがる場合は（pp.xxx-xxx）とする。※ページ数は半角数字で記す。

## ② 共著の場合

- i) 文献に2人の著者が存在する場合は、その文献が出現するたびに、常に両方の著者名を表記する。
- ii) 2名の共著の場合は、両方の著者の姓の間に「・」を付して表記する。初出以降に再引用する場合も同様とする。欧文文献の場合は、著者姓の間に「&」を入れる。

例) 鈴木・中村 (2014) によると、「～である」(p.6)、または  
鈴木・中村は～であると述べている (2014,p.6)、もしくは、  
～であると述べている (鈴木・中村,2014,p.6)。

例) Suzuki & Nakamura (2015) によると…

- iii) 共著者が3名以上の場合は、初出、再引用にかかわらず、筆頭著者名のみを書き、第2著者以降の著者名は「他」を付けて表記する。欧文文献の場合は、「et al.」を付ける。

邦文献例) 前田他 (2016) の報告によると～である (p.7)。または、  
～と報告されている (前田他, 2016, p.7)。

欧文献例) ～である (Tanaka et al, 2017, p.8)。

- (2) 引用・参考文献は、それぞれ、最後一括して著者名のアルファベット順に列記する。著者が20名以内であれば全員列挙する。21名以上の場合、筆頭者から19名まで挙げ、途中の著者は「…」で省略表記し、最終著者を記載する。

- (3) 引用・参考文献の記載方法、順序は次の通りとする。雑誌の巻数、号数は簡略法で記載する。

例) 第2巻3号→2(3)      vol.2 No3→2(3)

詳細については、APA論文作成マニュアル（第3版）を参照のこと。

### ① 雑誌掲載論文

著者名 (発行年次). 論文の表題. 掲載雑誌名, 号もしくは巻(号), 最初のページ数-最後のページ数.

### ② 単行本

著者名 (発行年次). 書名 (版数). 出版社名.

著者名 (発行年次). 論文の表題, 編者名, 書名(版数). ページ数, 出版社名.

### ③ 翻訳書

原著者名 (原書の発行年次). 訳者名 (翻訳書の発行年次): 翻訳書の書名 (版数), 出版社名.

### ④ オンライン版で、DOI (Digital Object Identifier) のない場合

著者名 (年号): 論文タイトル, 収載誌名, 巻 (号), 開始ページ-終了ページ, URL

### ⑤ オンライン版で、DOIのある場合

著者名 (年号): 論文タイトル, 収載誌名, 巻 (号), 開始ページ-終了ページ. DOI番号

### ⑥ Webページなど、逐次的な更新が前提となっているコンテンツを引用する場合

出版データのあとに括弧で括って検索日を記載する

## 10. 著者校正

査読を経て、紀要委員会で受理された投稿原稿については著者校正を1回行う。ただし、校正の際の加筆は原則として認めない。

## 11. 著作権

掲載論文の著作権は、上智大学総合人間科学部看護学科に属する。またその電子化（上智大学学術情報リポジトリ Sophia-R への掲載）についても了承したものとする。ただし、著作者自身は、出典を明記したうえで、自らの論文等の全部又は一部を利用することができる。

## 上智大学総合人間科学部看護学科紀要 投稿論文チェックリスト

\*論文投稿の際、下記（1～9）について原稿を確認してください。

- ☐ 1. 投稿者の資格が適切である。
- ☐ 2. 同一の原稿から作成した正本・副本の2種類を準備している。
- ☐ 3. 原稿の内容は、他の出版物にすでに発表、あるいは投稿されていないものである。
- ☐ 4. 研究の実施・論文記述において対象者に対する倫理的配慮をしている。
  - ☐ 倫理的配慮について本文中に内容が明記されている。
  - ☐ 本学の「人を対象とする研究」に関する倫理委員会、または主となる研究者が所属した施設の倫理委員会の承認を得ている。
  - ☐ 研究対象者へ研究内容および研究結果の公表について説明し、承諾を得ている。
  - ☐ 正本・副本ともに倫理審査を受けた機関について、特定できないように記載している。
- ☐ 5. 利益相反について、本文末に明記している。
- ☐ 6. 副本の本文は、以下を隠す処理をしている。
  - ☐ 謝辞のうち個人や機関が特定できる文字
  - ☐ 研究発表をした学術集会名
  - ☐ 助成金の名称や番号
  - ☐ その他、所属や研究施設が特定できる事項
- ☐ 7. 投稿規程に沿って記述をしている。
  - ☐ 原稿はA4版、横書きで、40字（英字・数字は半角）×25行とし、適切な行間をあけている。
  - ☐ 希望する原稿の種類と原稿枚数（文字数）は適切である。
  - ☐ 表紙には、論文の種類、表題、キーワード（3語～5語）、著者名、所属を日本語と英語で表記している。
  - ☐ 希望する原稿の種類に適した要旨をつけている。
  - ☐ 英文要旨については原則ネイティブチェックを受けている。
  - ☐ 図表の使用は必要最小限にとどめ、「図1」「表1」「写真1」等の通し番号をつけ、本文とは別に一括し、本文原稿右余白にそれぞれの挿入希望場所を指定している。
  - ☐ 外国の人名、地名に原語を用い、叙述中の外国語にはできるだけ訳語をつけている。
  - ☐ 文献の記載方法は投稿規定に従っている。

□ 8. 希望する原稿の種類に適した内容が記載されている。

1) 表題

□ 論文の内容と整合性があり、その内容を反映している。

2) 目的

□ 明らかにしようとしていることが明確にされている。

□ 研究課題に沿った用語の定義がされ、定義された研究の概念と調査内容に乖離がない。

【総説、原著、研究報告】

□ 先行研究の十分な検討のもとに研究課題が導かれている。

□ 研究の意義が明確に示されており、学術的な発展に寄与するものである。

【短報、資料、実践報告】

□ 研究の意義が明確に示されており、実践的、資料的な価値が認められる。

3) 方法

□ 研究対象・標本及び母集団が研究課題と適合している。

□ 対象の選択条件（除外条件）が明記されている。

□ 研究を行った場の特徴が明確に述べられている。

□ 調査内容・測定指標が明確に記されており、研究課題・目的と合致している。

【総説、原著、研究報告】

□ 研究課題に対して採択された研究デザインは的を射たものである。

□ データの処理方法が明示されており、研究課題に即して適切である。

4) 結果

□ 順序だててわかりやすく説明されている。

【総説、原著、研究報告】

□ データの分析に基づく研究課題・研究目的に沿った内容である。

□ 分析方法と結果の示し方が一致している。

【短報、資料、実践報告】

□ 研究課題・研究目的に沿った内容である。

5) 考察

□ 得られた結果に対する考察である。

□ 結果に対する妥当な解釈である。

□ 先行研究の結果との適切な比較がある。

□ 考察に飛躍がない。

□ 研究の限界や将来の研究への示唆について述べられている。

【総説、原著、研究報告】

□ 研究仮説（がある場合）と結果との関連が述べられている。

□ 結果（データに基づく事実）と考察（解釈）が明確に分けて記述されている。

\* 修正時のみチェックを行う

□ 9. 原稿および査読者への回答に、氏名・所属などの著者が明らかになる情報を記載していない。